外国にルーツを持つ児童生徒の入学や進学における現状について

学校教育課

1 就学受け入れの状況

- ・ 国籍に関係なく、住民登録されている幼児・児童が属している世帯あてに入学通知書を送付している。
- ・ 入学手続きに関しても、日本国籍の児童生徒と同じで、特別な手続き等を行っていない。
- ・ 日本語がうまく話せない状態で入学又は転入してくる児童生徒については、保護者との面談において学校における体験入学や日本語指導（学校外の日本語学校等）についても案内している。

2 本市における外国籍の児童生徒数

- ・ 市内小中学校において 89 名在籍（R5.10.23 現在）
- ・ 内訳としては中国籍が 44 名と約半数。それ以外ではアジア圏と南米が多い。（欧米圏は 0 人）

※詳細は、別添資料 1 - 2 「入間市立小中学校外国籍在籍状況」を参照。

3 中学卒業に向けた支援内容等

- ・ 令和 4 年度に中学を卒業した外国籍の生徒は 8 名で、8 名中 7 名が「進学」している。
- ・ 在学中における相談体制は以下のとおり。基本的には「進学」を前提とした進路相談をしている。

進路指導及びキャリア教育の授業（1～3 年）

高校訪問（2 年）

高校による出前授業（3 年）

進路保護者会（3 年）

三者面談や進路相談（3 年で 3～4 回）

- ・ 県教育委員会では県立高校への入学を希望する外国籍の生徒と保護者を対象に説明会を実施している。

※詳細は、別添資料 1 - 3 「外国籍の生徒の進路状況」を参照。

4 いじめや不登校の状況

- ・ 外国籍（もしくは日本語がうまく話せないこと）に起因したいじめの報告はこれまでにはない。
- ・ 令和4年度の外国籍の児童生徒の不登校の状況として、
小学校：1人（5年生、50日欠席）
…令和3年度も不登校であった。
中学校：1人（3年生、178日欠席）
…小学校のころから不登校気味で、中学から欠席が多くなっている。

5 日本語教室の設置状況

- ・ 日本語教室自体はない。
- ・ 県費の日本語指導加配が高倉小学校に1名配置されており複数校（金子小、東金子小、東町小）を兼務している。
- ・ 市費の日本語指導員（10人）が、週1～4時間程度、日本語指導にあっている。
- ・ 県費及び市費による日本語指導を受けている児童生徒数は、36名である。（学校からの要請に基づき配置）
- ・ 学校から、日本語指導員の配置をお願いされているが、配置待ちの児童生徒が5名いる。
※詳細は、別添資料1－4「日本語指導加配及び日本語指導員配置一覧」を参照。

6 就学に係る市への相談状況

- ・ 学校教育課窓口に来ることもあるが、ほとんどの場合は国際交流相談員に付き添われており、相談員を仲介役として、各種相談を受けている。

入間市立小中学校外国籍在籍状況 (R5.10.23現在)

	中国	フィリピン	ブラジル	パキスタン	イラン	インドネシア	ガーナ	ペルー	ミャンマー	モンゴル	ポリビア	ネパール	ベトナム	ウルグアイ	韓国	スーダン	合計
豊岡小	4								1	1							6
東金子小	1	3															4
金子小			1		3												4
宮寺小	1																1
藤沢小	1																1
狭山小	3		1					1						1			6
西武小	2			1				1			2						6
藤沢南小				2													2
黒須小	5	1											1				7
扇小	4																4
藤沢東小												1					1
藤沢北小	1																1
仏子小																	0
新久小	2					3											5
東町小	3	2	1				2		1								9
高倉小	4	2	1							1					1		9
豊岡中	5	2															7
金子中				1													1
武蔵中		1															1
藤沢中		1										1					2
西武中																	0
向原中	2																2
黒須中	1	1															2
東金子中	2																2
上藤沢中	1	1															2
東町中	1						1										2
野田中	1															1	2
合計	44	14	4	4	3	3	3	2	2	2	2	2	1	1	1	1	89

外国籍の生徒の進路状況

	学校名	生徒数	うち外国籍の生徒	進学先と人数	
1	豊岡中学校	86	3	県内公立学校	2
				進路先未定	1
2	金子中学校	67	2	県内私立学校	1
				県内公立学校【定時】	1
3	武蔵中学校	118	0		
4	藤沢中学校	217	0		
5	西武中学校	44	0		
6	向原中学校	168	0		
7	黒須中学校	92	1	県内私立学校	1
8	東金子中学校	109	0		
9	上藤沢中学校	155	0		
10	東町中学校	66	1	県内公立学校	1
11	野田中学校	114	1	県内公立学校【定時】	1
外国籍の生徒合計			8		8

県内公立学校	3
県内私立学校	2
県内公立学校【定時】	2
進路先未定	1

- 在学中の外国籍の生徒への相談体制について
- ・進路指導、キャリア教育の授業（1～3年）
 - ・高校訪問（2年）
 - ・高等学校による出前授業（3年）
 - ・進路保護者会（3年）
 - ・三者相談、進路相談（3年で3～4回）
 - ・外国籍の生徒向けの説明会の案内

日本語指導加配及び日本語指導員配置一覧（令和5年11月27日現在）

学校名	児童・生徒名	市費指導員	指導時間					日本語指導加配 配置校
			月	火	水	木	金	
豊岡小	児童1							
	児童2							
金子小	児童3	指導員A			+1h	2h		兼務校 ○
	児童4	指導員A		1h	+1h			
	児童5	指導員A		1h	+1h			
	児童6	指導員A		1h	+1h			
西武小	児童7	指導員B	1h				1h	
	児童8	指導員B	1h					
	児童9	指導員D			2h			
高倉小	児童10	指導員H			1h	+1h		本務校 ○
	児童11	指導員H	+1h		1h			
	児童12					+1h		
	児童13					+1h		
	児童14	指導員B	+1h		1h			
	児童15	指導員B	+1h		1h			
	児童16	指導員B			1h	+1h		
	児童17	指導員C					2h	
	児童18		+1h					
児童19	指導員B	+1h		1h				
藤沢東小	児童20	指導員B		2h		2h		
東金子小	児童21	指導員G		2h			+2h	兼務校 ○
	児童22	指導員E	1h				+1h	
	児童23						+1h	
	児童24	指導員E	1h				+1h	
黒須小	児童25	指導員I			2h		2h	
	児童26	指導員E		2h				
東町小	児童27	指導員F		+1h		2h		兼務校 ○
	児童28	指導員C	2h	+1h				
	児童29	指導員H	2h	+2h				
	児童30			+1h				
	児童31			+1h				
宮寺小	児童32	指導員H					2h	
豊岡中	生徒1	指導員E				1h		
金子中	生徒2	指導員B		2h				
藤沢中	生徒3	指導員E					2h	
黒須中	生徒4	指導員I	1h					
上藤沢中	生徒5	指導員H		2h				
向原中	生徒6	指導員J				2h		
東町中	生徒7							

白抜き 日本語指導加配（県費）が指導を担当。
色付き 日本語指導員を募集中で未配置のもの。

不登校対策について

学校教育課

1 平成30年から令和4年までの不登校数の推移について
(入間市・埼玉県・国)

不登校	入間市				埼玉県				国			
	小学校		中学校		小学校		中学校		小学校		中学校	
	件数	発生率	件数	発生率	件数	発生率	件数	発生率	件数	発生率	件数	発生率
H30	7	0.04	66	1.7	1,908	0.51	5,863	3.13	44,841	0.7	119,687	3.65
R01	9	0.09	55	1.5	2,126	0.58	6,331	3.4	53,350	0.83	127,922	3.94
R02	21	0.13	80	2.2	2,630	0.72	6,458	3.46	63,350	1	132,777	4.09
R03	35	0.3	148	4.0	3,256	0.9	8,106	4.31	81,498	1.3	163,442	5
R04	54	0.79	207	5.81	3,448	0.96	8,406	4.78				

2 これまでの不登校支援について

① 生徒指導訪問の実施

不登校児童生徒への対応状況について、適切に行われているか（2日休んだら家庭訪問の実施について）を確認し、課題については、修正するよう指導を行う。

② 不登校対策研修会の開催

学級から不登校を出さないための対策について学ぶ不登校対策について、国や県の最新の指針を示し、各学校で情報交換を行った。

③ 適応指導教室の運営

学校生活にうまく適応できていない市内小中学校に通学または市内在住の児童生徒を対象とする、学校復帰を目的とした施設。令和5年度現在、35名が在籍。令和5年4月には6人の児童生徒が「ひばり教室」から学校に復帰を果たした。

④ 不登校相談

相談先は教育センターや児童発達支援センターういず。児童生徒や保護者が学校以外で教育上の相談をすることができる相談員を配置。

⑤ 不登校アセスメント調査（令和3年度実施）

調査の結果、「保護者からの注目を獲得するため」「学校外の強化子（ご褒美）の強さ」により登校を渋る可能性が考えられた。つまり、学校外に学校よりも楽しいものがあり、そちらを登校より優先してしまう傾向があるということが分かった。

3 COCOLO プランについて

文部科学省は、不登校により学びにアクセスできない子供たちをゼロにすることを目指し、「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策（COCOLO プラン）」を取りまとめた。COCOLO プランでは、

- ① 不登校の児童生徒すべての学びの場を確保し、学びたいと思った時に学べる環境を整えること
- ② 心の小さな SOS を見逃さず、『チーム学校』で支援する
- ③ 学校の風土の『見える化』を通じて、学校を『みんなが安心して学べる』場所にする

の3つをおもな取組みとし、誰一人取り残されない学びの保証を社会全体で実現することを目指す。

- 取組1 不登校特例校の全国 300 校設置（分教室型含む）や、校内教育支援センター（スペシャルサポートルーム等）の設置促進等
- 取組2 GIGA スクール構想下で整備された 1 人 1 台端末を活用し、小さな SOS に早期に気付く体制を構築
- 取組3 学校の風土を「見える化」するためのツールを整理し全国へ提示する、「授業」の改善、いじめ等の問題行動に対する毅然とした対応の徹底など。

4 NPO法人カタリバとの連携

NPO法人カタリバと連携し、room-k（ルームケイ）と呼ばれる仮想空間上で不登校児童生徒への支援や相談を実施している。

（参加日は指導要録上の出席扱いとしている。）

（1）room-k とは

対象とする小中学生ひとりひとりの状況に合わせた継続的な伴走をモットーに、伴走スタッフを設置し、ニーズや興味関心に基づいた最適な支援計画を作成し、意欲向上・学びの場への接続・自律を目指していく支援の場。

※支援の流れ

- ①作戦会議の実施 コーディネーターと呼ばれる支援員が保護者や子どもと面談を重ね、チャレンジ目標を設定する。
- ②作戦実行 個別プログラム（様々なオンライン学習プログラム）に参加することで、チャレンジ目標へ挑戦する。
- ③接続伴走 集団プログラムに参加することで、関係性のひろがりをサポートする。

（2）参加者 現在小中合わせて 15 名が参加。

（3）効果 オンラインオフィスなどで使用されるツールを使い、インターネット上で自らのアバターを通して人とかかわる経験をすることができる。失敗を恐れず、他者と交流できることで、不登校の状況が改善されることが期待できる。学校復帰がかなった生徒もいる。

（4）取組状況 学校との連携会議を学期に一度設け、ケースによっては福祉や医療の支援が必要となるケースもあるため、その時には学校や関係者、カタリバとでケース会議を行い、現場での支援方針を検討する会議を実施している。